

水俣病解明、県が助成

初年度まず360万円

熊大共同 今年中には結成へ

水俣病の未解明な領域について調査、研究するため熊本大学医学部では、武内忠男教授（病理学）

らが中心になって共同研究班の結成準備を進めているが、県も研究助成金を出して協力する方針を固めた。五月の肉付け予算に關係予算を計上するが、初年度は三百六十万円程度を見込んでいる。

熊本大学では、水俣病の発生当初から研究班を結成、水俣病の原因をつきとめるなど、これまで水

俣病の解明に幾多の功績を上げてきた。しかし①人間ほどの程度の水銀汚染で発病するか②水俣で多くみられる神経性疾患も水銀によるものか③など、まだ解明されずにいる問題も多い。

そこで武内教授らが「もう一度水俣病を多面的に洗い直してみよう」と、共同研究班の結成を準備しているもので、これには米国のメイヨ医大疫学部長のレオナード・カーランド博士らから研究資金

提供の申し出もあっている。

しかし武内教授らは「できれば県の協力を得たい」と県に研究助成金を要望していた。県では現在、五月定例県議会に提案する肉付け予算を編成中だが、この要望を受け入れ、助成する方針を固めた。熊大側が要望する額は、いまのところ初年度として三百六十万円で、県もこの程度の助成を考えている。

この結果、熊大共同研究班の結成は、いよいよ本格化することになり、おそくとも年内には耳鼻、

眼科なども含めた研究班が結成されることになる。